

少子化とこれからの教育



下屋 俊裕 氏
株式会社 市進ホールディングス 代表取締役会長

少子化と働き手の減少を背景に 20年後を想定した経営が 問われる

2020年、日本の人口は約1億2500万人。20年後には1億1000万人を切るようです。年齢別では、年少人口（15歳未満）、生産

年齢人口（15歳以上65歳未満）、老年人口（65歳以上）のうち、2020年に36.2%だった老年人口が、20年後には39.2%となり、約3900万人の老年人口を、約700万人が支える時代になっていきます。30代、40代の経営者の方、幹部の方は、20年後を想定した経営が重要です。働き手も少なくなり、生徒数も減るということを常に念頭に置いておかなければなりません。

2015年から2020年、23区内で子どもの数が増えている区もあります。千代田区、中央区、港区あたりです。もちろん減少している区もあり、都下にいたっては少子化と働き手の減少が同時進行しているのが現状です。今後、塾の教室を展開していく際には、5年先、10年先の子どもの人口動態を予測することが、ひとつの指標になると思います。

18歳人口は、大きなスパンにおいては減り続け、200万人を超えていたのをピークに、30年間で120万人弱まで減少。一方で大学進学率は上昇し続けており、短大、専門学校進学を加えると6割近く。少子化にも関わらず、塾・予備校に通う生徒数を維持できていたのが2020年までの傾向だと思っています。

総合教育サービス企業として 躍進する市進教育グループ

弊社は、2010年にホールディングス体制に移行し、総合教育サービス事業へと舵を切りました。現在、首都圏1都4県を中心に、学習塾「市進学院」「市進予備校」「個太郎塾」小学受験は「桐杏学園」、茨城には「茨進」、映像商品「ウイングネット」を展開しています。また、介護事業にも注力しており、売上、利益ともに拡大を見込んでいます。

業界内ではいち早く2006年に映像配信を内部で開始、翌年ウイングネットの

Zoomや映像配信に切り替えるなど、新しい教室体系を作っていくかという課題。現在、教室がある町は、10年後にはこれだけの人口動態になると予想しながら、あらゆるデータを活用し戦略を練ることで、人の役割が創出できます。

映像授業に人が介在する これから求められる教育サービス

少子化が進み、集団での授業が不可能になり、そのエリアで先生も雇うことができなくなるときのどのような形態で運営するのか。決めた時間にオンライン授業を実施、双方向ですから質問は可能。反転学習をやってもかまわないと思います。イントロ学習は映像でやり、実際の授業に入るやり方や映像授業のイントロ部分を復習に使うなどやり方は様々です。その場合のポイント、スクリーニングを行うということ。自己管理ができる生徒は、どんどん進んでいきますが、一方的な映像配信だけでは継続が難しい生徒もいます。頑張った生徒は褒めてあげたいですし、個別で話ができるスクリーニングは必須です。

AI搭載型、映像配信型、オンライン型、いろいろな授業があると思います。一般的なデジタル教材は、正解したら次のステップへ進む、いわゆる「刺激」と「反応」で進む機能です。刺激と反応による記憶は「短期記憶」です。他方で弊社のウイングネットのように問題を解きながら、問題用紙に何

外部配信を始めました。映像配信に関しては、塾様、学校様を中心ですが、配信先は約2650拠点。現在、全国46都道府県の塾様だけでなく、沖縄の離島地域（13市町村）や、様々な事情で塾へ通うことができない地域へも、映像授業を配信しています。

教育関連事業として「千葉県御宿町」で「学向上支援事業」では、御宿地域の小・中学生に算数・数学・英語の基礎学力向上の指導を行いました。また、昨年度の3、4、5月、学校の休校期間に、市川市から要請を受け、無償で「在宅学習支援」を実施。対象生徒は3万人を超え、アクセス数だけで2万8000件近くあり、現在も継続中です。

教職員の研修では、毎年、群馬県内の小中高の新任校長を対象にした管理職研修や船橋市での新任教頭研修、珍しいところでは舞鶴市の海上保安学校での指導教官を対象にした技術指導の研修なども請け負っています。「桐杏学園」のブランドで、小学校入試も含め、幼児から高校生までを対象に事業を展開。「アフタースクールナナカラ」という体験型の学童施設も6カ所運営しております。

加速するデジタル化社会 AIと共存する時代へ

学習指導要領で謳われている「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向



度も繰り返し書いたものは手が覚えます。個人的な感覚ですが、目の記憶よりも手の記憶の方が勝っていると思います。手の記憶は、結果的に「長期記憶」につながるのではないかと。今ある映像商品、オンライン授業の質は非常に高いですが、記憶に関しては、短期記憶が多いのではないかと。この短期記憶をいかに長期記憶にするか。その部分に人が入りこむ余地があります。「できたね」と言いながら先生が課題を与え、生徒が解けなかったとき、先生をうまく入り込ませる。どのタイミングでどのようなやり方で先生が入っていくかで、同じ映像中心の授業でも変わるとは思います。

少子化という厳しい時代の中、先生方は大変ご苦労されていると思います。コロナ禍で先が見えない状況ですが、毎日コツコツと進んでいけば、明日も見えてくると確信しています。皆様方と一緒に、子どもたちが元気にマスクなしで普通に歩けるその日まで頑張っていければと思います。ご清聴ありがとうございます。

かう力・人間性」、この3つの柱からなる資質・能力を、母国語だけでなく、英語を使いこなし育んでいくことが、これからの教育で問われます。このような時代に向けた教育環境の整備や最適な教育を実現するのが、GIGAスクール構想です。映像教材のAI搭載は当たり前前の時代、一番のポイントは、デジタル教科書だと思っています。PCで教科書を見ることができ、教科書の問題集も付いてくる。PC1台で、生徒別の学力分析も可能になります。革新的なイノベーションが創出されるであろうと言われていたことが、コロナショックにより一気に加速されている。オンライン会議やeコマース、オンラインによる受注・発注など、コロナ禍によりベクトルが違っていくのかなと感じています。これまではいろいろな問題が生じたときに、人間同士で知恵を出し合い解決していただきました。国境や年齢、性別も超え、あらゆる問題に対処できていたと思います。しかし、これからは、人にプラスしてAIとの共存という時代になっていく。教える現場もまさにそういう世界になっていく。では人の役割はどうなのか。本来であれば手作業でいろいろな知識をまとめ、データを作っていた部分が、ほとんどデータとして存在し、そこから答えを導き出せる。処理能力では圧倒的にAIが優れています。新しい価値創造を担うのが人の役割です。10年先、20年先の少子化を見越し、AIをどう活用していくかです。集団で行っている授業で、一部の科目は